

ここから ほら はじまるよ

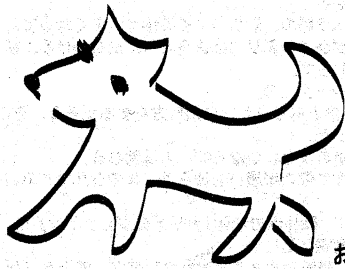
春のおとずれ ずんずんきたら

歩きだそうよ

声とコトバと詩の情報発信ステーションcocoroom
大阪市動物園前フェスティバルゲート4Fにオープン

詩のリディングなど 各種ワークショップを開催
ミーティングにもどうぞ ライブラリもあるよ
ぼえ犬もいるよ

歩きだしたら 顔をあげて 前にすすもうよ



おいかけて春を走り出すと、
コバトが鼻先をかすめて飛んでいった

ぼえ犬通信

準備号

2003年3月10日
発行:cocoroom

cocoroomについて

新世界アーツパーク事業の一環としてオープンするcocoroomは、ことばと声の情報発信を中心にすえつつ、自由なスペース展開を目指します。

cocoroomは、同アーツパーク事業の中で、もっともシンプルな表現形式である「詩」の幅広い層への普及を目的とします。

アーツマネジメントスタッフの育成も含め、明日の大阪の文化振興の一翼を担うことを期待されています。

cocoroomの運営母体である「cocoroom連絡協議会」は、アーティスト同士がお互いに助け合い、パッションに影響しあうことで、新しい表現と市場を開拓できることを願って、発足いたしました。

cocoroomの立ち上げに際し、初期コンテンツは、各種イベントやワークショップを予定。コトバにまつわるライブラリーも開設します。また、稽古場やレンタルスペースとしても、お気軽にご利用ください。

cocoroomと、どのようにおつき合いいただくかは、あなた次第。

アイデアとエネルギーを持ち寄って、ココロとコトバの橋を渡って、であいましょう。きっと、新しいあなたに、素晴らしいことが始まります。

コバトの階段

道ばたに転んでいると退屈になって
風をおいかけて 春を走り出す
電信柱を越えて コバトの階段

ちいさな羽は
午後のスプーンのように
ひるがえって

跳ねて
鼻先をかすめる

あの階段をのぼって 屋上にでたら
明日のことを考えてみてもいい



名前：ぼえ犬
生まれ：大阪
居住地：フェスティバルゲート ココルーム
年齢：数えたことがない
趣味：おさんぽ
すきなもの：おひるね みずたまり
職業：ココルームの番犬らしい

“声”って、なんだろう。
 “ことば”って、なんだろう。

「あー」と小声を出してみる。お昼休みの四ツ橋通りを歩きながら、冬曇りの空の下、声はかぼそく枯れている。街路樹を見た。ひとりごとでは届かない。届けようとする声は、きっと違う表情を見せるだろう。

ひょんなことから社会福祉法人・日本ライトハウス・ジョイフルセンターでのワークショップに参加することになり、そこでわたしは貴重な出会いを経験しました。この“声とことばのワークショップ”は、視覚障害者たちと彼らをささえる職員とボランティア、そしてアーティストたちが、それぞれに耳をすまし、手探りでお互いに向かいあうところからはじまったものです。

わたしは普段、サラリーマン稼業のかたわら、唄をうたったり、詩のリーディングなどをして、自分を表現する場を持っています。しかし、今回このよな形で文章を書くのは初めてです。わたしは“声とことばのワークショップ”が、今体験していることを言語化し、ひとりでも多く伝えていく責任まで含んだ問題提起となるのではないかと考えました。ライトハウスでのワークショップの体験を通して、“声”と“ことば”の可能性を拓く、生きたレポートになるよう、がんばります。

●出会い
 この発端は、昨年11月、友人ダンサーFさんの公演終了後のこと。アフリカ太鼓で遊んでいたわたしに、「あう」声をかけてくれた女性が日本ライトハウス職員の井野さん。視覚障害者にボランティアの音楽指導をしてくれる人を探しているのだとか。2日後、呼びかけに応じたのは、『詩の学校』の上田真奈代、演劇人の門田剛。ボランティア経験なんてほとんどないわたしたち3人は、やや不安げな心持のまま井野さんの紹介で、ライトハウスの体育室で4人の中途失明者と出会いました。

まずは自己紹介。緊張したわたしは、恥ずかしい失敗などをしてみんなの失笑を買いました。でもなんとか打ち解けた雰囲気になったみたいで、お互いをあだ名で呼び合うことになりました。

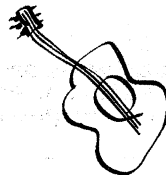
●中途失明

紹介された4人は、全員成人後の中途失明者。事故や病気などで失明する以前は、当然普通に生活していたばかりです。われわれは生活上、かなりの割合を視覚に頼って暮らしていますが、しっかりと自己イメージを持つ上でも視覚情報は重要で、中途失明したことで心の問題を抱えてしまう人も多いのだとか。円形に座っているわれわれの中で、一番若いユーキはよく喋ってくれますが、実はとってもシャイなんだろうなあ。テッチャンは、しっかりとした印象ですが、今回の音楽練習に参加するかどうかギリギリまで迷ったそうです。タダッチは以前ベースを弾いていたそうで、ライトハウスにベースがないことを悔しく思っている様子。最年長のヌマサンは頭をうなだれ、自己紹介の声もほとんど聞き取れないほど。わたしは、とりえず、課題曲の「贈ることば」をみんなで歌うため、ギターを持ちました。でも、歌詞ももう覚えだし、4人は目が見えないし、どうやって歌ったらいいのだろうか？

そこで、ギターにあわせて、上田さん（以後カナチャン）が、「贈ることば」の歌詞の朗読をすることにしました。みんなポエトリーリーディングなんて聴いたことあるかしら？（なんせマイナーなジャンルですから）カナチャンは歌詞を忠実に朗読するのではなく、彼女の解釈を加え、即興で独自の「贈ることば」を語り出しました。そこにいる全員が耳をすまし、体育室の空気が少しだけ、ふるえはじめました。

つづく

※ワークショップのあいだ、お互いの“距離をちぢめる”ため、参加者全員があだ名で呼び合いました。本文中の記載も、その時の呼び名で記載させていただいております。



こんにちは、詩のオーケストラです。

声の即興響グループ「詩のオーケストラ」（以後詩オケと略称）代表のワガキングです。声を響き渡らせること。これが詩オケの真骨頂だと、僕は理解しています。詩オケの生まれは、平成14年夏。「詩の学校」で意気投じた有志により結成されました。同年11月4日におこなわれた歴史院「コモンズフェスタ」の初舞台を経て、幾つかの舞台を経験。編成は、まさしくオーケストラのような人数もあり、またたった独りのこともあります。

ことばを紡ぐ響きから、あるときは、にせホーミー「唸り組」や「詠経組」、はたまた声を出さずに急ぐ「急ぎ組」も誕生。原子レベルまで掘り下げ、音の響きを表現するのです。声と呼吸を真ん中に、様々なかたちで、色んな人が、あらゆる方法で、ためしながらか、詩オケは生きています。最近では、JAMセッションのように、ん〜や、は〜などハミング風の声を響かせながら詩オケをしています。この、ん〜や、は〜は、最初よくわからなくてチュウチョしてましたが、やってみると簡単でした。朗読のステージで、緊張のあまり深呼吸したら、場の空気みたいなのを感じ、この中に、心を伝えたいものを響かせることなのだと、わかりました。だから、ん〜や、は〜は、効果音じゃなく、バックコーラスではなく、朗読と同じで、ん〜は〜と詩を吟じながら、空気を震わせます。今日も運転中にん〜は〜。電車で揺られては、ん〜は〜ウヨ〜と詩オケしています。

月に2回ococoroomで詩オケ開催中、一緒に、ん〜は〜
 →ワガキングwogakingogaking@yahoo.co.jp

も一れちゅ！マウス絵道場！

～詩のオーケストラサイト共同企画～
http://www.kanayo-net.com/si_oke/
 マウスでへろっと描いてみよう♪
 描いたら、送ってみて
 →まうす絵師範 ezman@nifty.com



宇宙の王子
 点は宇宙
 点王子
 輝いビーナ

サイババ
 マハリシヨキヨキ
 地球はひとつの点
 地球にいっぱいの点

太陽の点
 宇宙の点
 点は一つ
 点は一つ
 点は無限
 点は無限

「玉子の歌」
 玉子は踊らない
 地球に座す
 ワンツースリー

NPO準備委員会設立について

来年の春をめざしてNPO法人をたちあげたいと思い、そのための準備委員会の声をあげました。代表のワガキングです。

さて、どのようなNPOなのか。そのきっかけは、昨春秋にある視覚障害施設で行なったワークショップでの体験が源となります。中途失明である参加者が、ワークショップを通して、自分を表現する気づきを行ない、他者に働きかける勇気をもったのでした。わたしたちは彼らに技術修得の方法などを教えたのではなく、特別なメソッドはなく、わたしたちがそれぞれの表現（詩、音楽、発声練習）を行った結果のことでした。そして、わたしたち自身が今までにはない感動をとらえました。

アーティストがそれぞれの表現を通じ、障害を持つ方々がより多くの選択肢の中から豊かな生き方の発見していくワークショップ。これは決して、セラピーではありません。そこではアーティスト自身も新たな可能性を発見することになります。この活動はアーティストが社会的に立つひとつの理由になり、アーティストを支援する仕組みをつくることとなります。そして、アートに関わっていない方々もこの活動に参加していただくことで、それぞれが自身の持ち味をいかしながら、自発的に生きることの発露を見出しただけではないかと考えました。この三者の引き合わせをするコーディネイト機関・アーティストと社会をつなごうと、大意をもってNPO化を計画中です。

NPO準備委員会を発足するにあたり、ご賛同いただける方、企業、団体、アーティストに呼びかけたく存じます。どうぞよろしくお願ひします。ご質問・お問合せは下記まで。

→代表ワガキング（小川賢治）
 wogakingogaking@yahoo.co.jp

「ぼえむでじょじょにやせる！」

多くの女性が毎日のようにダイエットに励み、身体を壊したりするのも、日常的な光景となった現代社会。うーむ、無茶はいけませんな。詩とリーディングを用いた積極的画期的『ポエムダイエット理論（構築中）』で健康的に痩せてみましょう。

～古来から詩人は痩せていた！？～

松尾芭蕉なんて日本中歩きまわっていたらいいですから、きっと痩せていたような（気がする）。

サッフォーなんて、古代ギリシャの女性だから痩せているような（気がする）。中原中也の写真なんぞ見ると目に星をいれて痩せているような（気がする）。

与謝野晶子は、すこしばちばちちしていたかしら、でも絶対な愛の姿で、痩せていったような（気がする！）。太った詩人って、あんまりピンとこないでしょ。

この連載では、ポエムダイエット理論の構築および検証によって、健康的に痩せるライフスタイルを提唱してゆこうというわけで、現在、筆者頭をかかえている次第です。

そのことを某詩人に相談したら「立ち話もなんだし」と、阿倍野フープの2Fで、いちごパフェを注文して「一膳づつコトバになって吸収するから太らないのよと真顔で言うのですが、嘘やろ。しかし、わたしは詩人のコトバにはまだ晒されていない真実のにおいを嗅ぎつけました。

「ポエムでこんなに立派に痩せたよ！」という珍しい方がいらしゃったら、どうか助けるとして、ご一報ください！

→イイジマ ezman@nifty.com



イリュージョン

リチャード・バック(著)、村上龍(翻訳) 集英社文庫
人生の大海原の前でしゃがみこみたくなるあなたに
おすすめ度:★★★★★

きっと、選択は、想像力とコトバなのだと思う。

そして愛やね。

読み終わって「空を見上げろ」と村上龍が言うので、走る電車のなかで肩を傾けて首を回して、空を見あげた。

窓枠を超えて、ナナメに、直線の送電線と青い空が見えた。

近鉄電車京都線の八木駅あたりを通過した電車のうえに、空があった。

今から、15年くらい前の話だ。

その空は、今日の空へと続いている。

主人公リチャードと飛行機乗りの救世主・ドンの出逢い頭のシーンが秀逸である。

「待たせたね」

「遅かったじゃないか」

空を降りてくるプロペラ機の、近づいてくる影は大きくなって、ふたりは既知の友人がひさしふりに出逢うように話しかける。初対面であるにもかかわらず。

なんだか泣けてくるシーンのな。

彼らはきっと、もう二度と巡りあわない別れ方をするだろう、その暗示を読み取るのだった。

でもそれは、当たり前のこと。かならず、人は別れる。

死が防れるその迎え方に似た出逢いを彼らは、草のうえでする。

高校生が読む本として、同作者の前作「カモメのジョナサン」は、最終幕での過剰な美意識が鼻についた。

次作の「One」では、説明的すぎる底流い文字面が、欄上感（なにか大切なところを欄の上にあげてしまった感じ）で、一緒につり革を持とう、という気が萎えてしまう。

今でも、ウエダの机のうえでは見開きのまま「イリュージョン」がプロペラ機の音で、水のうえ歩く想像力で、人生の後悔のしない生き方を、教えてくれる。

today's 1/365 vol.1

「メールやめたから、手紙にしました」

こんな書き出しからはじまる手紙が届いて、ピクンとする。差出人は、東京の女流歌人。

わたしのメールへの返事が、ていねいに文字に綴られている。それまで、彼女の夏の光のようなメールに何度も励まされていたわたしは、このところ返信のない彼女のことを心配していた。ひとまづ、元気なことがわかって安心する。なにゆえ、彼女がメールをやめたのかは、およそ想像がついた。

着信音とともにやってくるメールがなくては、どうい仕事はかからない。原稿や多くのいろんな仕事は、メール送信で済ませている。仕事だけでなくプライベートでも、メールへの依存率が高い。その弊害も、もちろんあることは知っている。感情のこじれは、まずメールでは片付かない。違うか、電話するか。

何度か、メールボックスの前で感情の波を揺らせたことがある。憤りで、画面を凍らせたこともある。またたく間に黒い画面になって、落ち込むのだ。それでも、メールをやめることはないだろうと、思う。道具なんだから。メールが大事なやなくて、コミュニケーションが大切なやから。

ふみ箱から、封筒と便箋をとりだし、机にその便箋分のスペースをあげ、ほおづえをつき、彼女に返事の手紙を書きはじめる。



関連情報

■写案の宴

3月23日(日) 18:00~26:00

前売¥2000 当日¥2500 1drinkつき

会場: クラブダウン

大阪市北区中崎西3-3-8 J R京都線高架下 tel.0663734919

主催: 写案0663715840・09078774698 (代表:あき山)

*上田假奈代はオープニングアクト 波さ知らズ 馬頭琴ホーミー ほか

■詩の放課後 春の発表会「サクラ咲ク」

3月28日(金) 19:00art 入場無料

会場: 京都芸術センター制作室5(北館2階)

お問合せ: 芸術センター <http://www.kac.or.jp>

604-8056 京都市中京区室町通船業師下る山伏山町546-2

tel.075-213-1000(代) fax.075-213-1004

kacinfo@kac.or.jp

■詩の学校(應典院校)

ポエム道場 ¥1,000 講師: 上田假奈代

3月5日・19日

4月2日・16日 すべて水曜 19:30~

應典院 <http://www.oudenin.com>

大阪市天王寺区下寺町1-1-27 tel.0667717641

■【星の市場】詩の学校(天人校)

朗読道場 ¥1,000 講師: 上田假奈代

3月30日 4月27日 すべて日曜日15:00~

AManTO天人 <http://www.yura-ism.com/amanto/>

大阪市北区中崎西1-7-26 tel.0663715840

■詩の放課後

3月6日・20日

4月3日・17日 すべて水曜日 19:00~

¥1,000 講師: 上田假奈代

芸術センター <http://www.kac.or.jp>

京都市中京区室町通船業師下る山伏山町546-2

tel: 075-213-1000(代) fax: 075-213-1004

kacinfo@kac.or.jp

APRIL
MAY

■ワークショップ・声

4/7、14、21、5/12、19、26、すべて月曜
20:00~ ¥1000
こえも、からだをつかうことのうち。「こえ」について探りを入れてみましょう。
講師：門田剛 (officehakua)

■詩のオーケストラ@ワークショップ

4/12、26、5/10、24 すべて土曜
19:00~ ¥1000
声の即興響グループ「詩のオーケストラ」
講師：オガキング、イメージマン

■上田假奈代のぼえ茶会vol.1「キモノと詩と朗読」

4/19sat 19:00~ ¥1500 (お茶とお菓子つき)
日常着物指南：はじめて着物を着てみたいと思ったあなたに

■上田假奈代のぼえ茶会vol.2「ハナキンナイト」

5/9 金 20:00~ ¥1500 (お茶とお菓子つき)
オープンマイクでニギニギと賑やかに。出演者募集中

■ぼえ犬わん

5/31土 19:00open 19:30start ¥3800 (CD付)
cocoroomオープニングパーティ
+上田假奈代レコライブ「あなたの上にも同じ空が」
協賛：キリンビール

●cocoroomでは、この場所を有効につかって勉強会やワークショップ、イベントを企画したい人を応援します。詳しくは、お問合せください。 info@kanayo-net.com

●ワークショップ・声

→ officehakua (kadotakesi@ezweb.ne.jp)
日常的に特に困難を感じず、声と言葉を使って自己表現している皆さんと一緒に、「こえをだす」ということにわざわざ改めて着目してみます。
「こえも、からだをつかうことのうち」。「ことば」の表現の大切な側面が「こえ」ですから、試行錯誤しながら「こえ」について探りを入れてみましょう。参加資格限定なし。

●詩のオーケストラ@ワークショップ

→ ラガキング (wogakingogaking@yahoo.co.jp)
声とことばをつかった即興響グループ。ココロとカラダがあたまるワークショップにご参加ください。

●上田假奈代のぼえ茶会

→ shitacocoro project (info@kanayo-net.com)
人生に必要なものはいくつあるけれど、お茶がなくちゃね。なごやかにティーパーティとしゃれこみましょう。詩とかキモノとか、新人発掘とか、いろいろやってみようと思っています。お茶をいれたげるよとか、「作ったお菓子を販売したい」とか、もし、そんな方がいらしたらご連絡ください。

●ぼえ犬わん

→ APM (info@kanayo-net.com)
コルムのお披露目パーティです。代表をつとめる上田假奈代入魂の朗読CDのレコライブ「あなたの上にも同じ空が」CDつきよ。食べ物持ち込み歓迎よ。ぜひいらしてね。

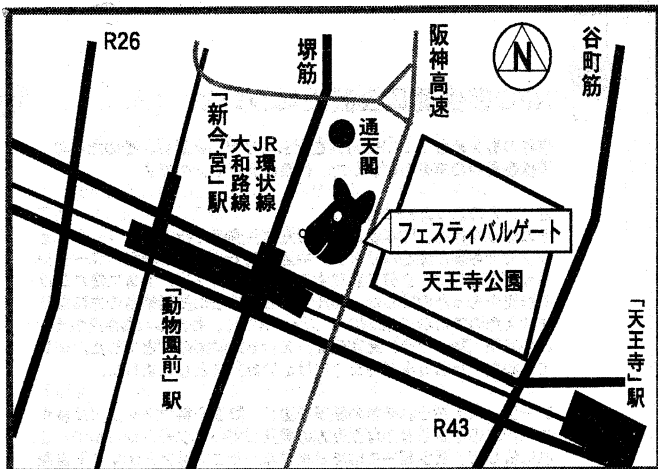


www.kanayo-net.com



POEM SHOOL

http://www.kanayo-net.com/si_oke/index.html



cocoroomでは、寄付をつのっています

03年5月から始動するフェスティバルゲート内cocoroomでは、立ち上げ及び運営管理のための寄付をつのっています。ご寄付いただいた方には「ぼえ犬通信」にお名前を掲載させていただきます。

5000円/1口 何口でも結構です

●振込先
三井住友銀行 船場支店 普通 2140440
cocoroom 代表 ウエダカナヨ

●アクセス●

大阪市営地下鉄御堂筋線「動物園前駅」5番出口から直結連絡
堺筋線「動物園前駅」5番出口から直結連絡
大阪市営バス「地下鉄動物園前停留所」すぐ
JR 環状線・関西線「新今宮駅」東出口すぐ
南海電鉄本線・高野線「新今宮駅」東出口すぐ
阪堺電軌鉄道「南靄町駅」すぐ <http://www.sap-s.jp>

編集後記

作文教室をしようか、そんなことをサブウェイのサンドウィッチを食べながら、笑う。御堂筋のイチョウの枝もなんとなく春の空に背をのぼしている。わたしたちは、やりたいことをやっていく。それがcocoroomの基本姿勢なの。あなたのやりたいことは何かしら。もし、ここが役立てそうなら声をかけて。cocoroom連絡協議会という、いかつい名前は、わたしの愛する京大西部講堂を運営する同名称から拝借。

それから、世界中の生きる人々に、愛のエネルギーを。(U)

COCOROOM

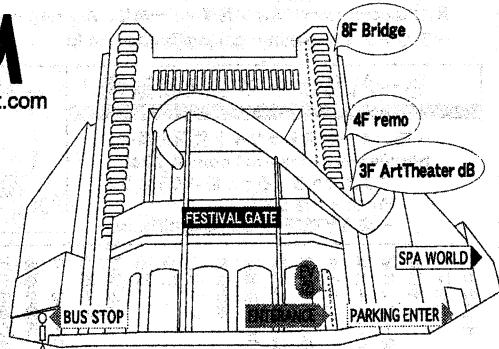
zip556-0002 大阪市浪速区恵美須東3丁目4番36号
フェスティバルゲート4F



www.kanayo-net.com



Shinsekai Arts Park



*cocoroomは、4F remoのおとなりです